

令和元年度秋季企画展

## 桑野遺跡と北陸の縄文装身具

桑野遺跡は、JR芦原温泉駅北東の低丘陵上に所在した遺跡で、土地区画整理と道路改修工事に伴い、平成4～6（1992～1994）年に発掘調査を行いました。調査では、縄文時代早期末頃の玦状耳飾を中心とする石製装身具が墓穴と思われる密集した遺構から数多く出土し、日本海側では数少ない貝塚も検出した大変貴重な遺跡でしたが、残念なことに現存しません。

本展は、調査終了から四半世紀を迎えた平成31（2019）年3月の桑野遺跡の正式な発掘調査報告書発刊を記念して企画され、本遺跡出土の国指定重要文化財である玦状耳飾をはじめとする石製装身具全点の展示を行うものです。また、比較などのため、石川県、富山県、新潟県の各遺跡から出土した、近い時期の玦状耳飾を主とする装身具類を多数お借りし、これらも一堂に会して展示しておりますので、この機会にじっくりとご覧ください。

最後に、本展の開催にあたり、快くご協力いただいた関係者・関係機関の皆様にご心より感謝申し上げます。

### 1. 桑野遺跡

#### （1）概要

本遺跡は、福井県あわら市と石川県加賀市にまたがる加越台地東南縁に接した標高20m程の低丘陵上にありました。金津東部土地区画整理事業に際してその存在が明らかになり、丘陵の平坦部のほぼ全域と北側斜面を含む約9,100㎡を、平成4年～6年（1992～1994）の3ヵ年で発掘調査が行われました。

調査から、縄文時代早期末から近世に至る複合遺跡で、中でも縄文時代の土壌群が中心であることが判明しました。



桑野遺跡遠景（平成4年撮影）

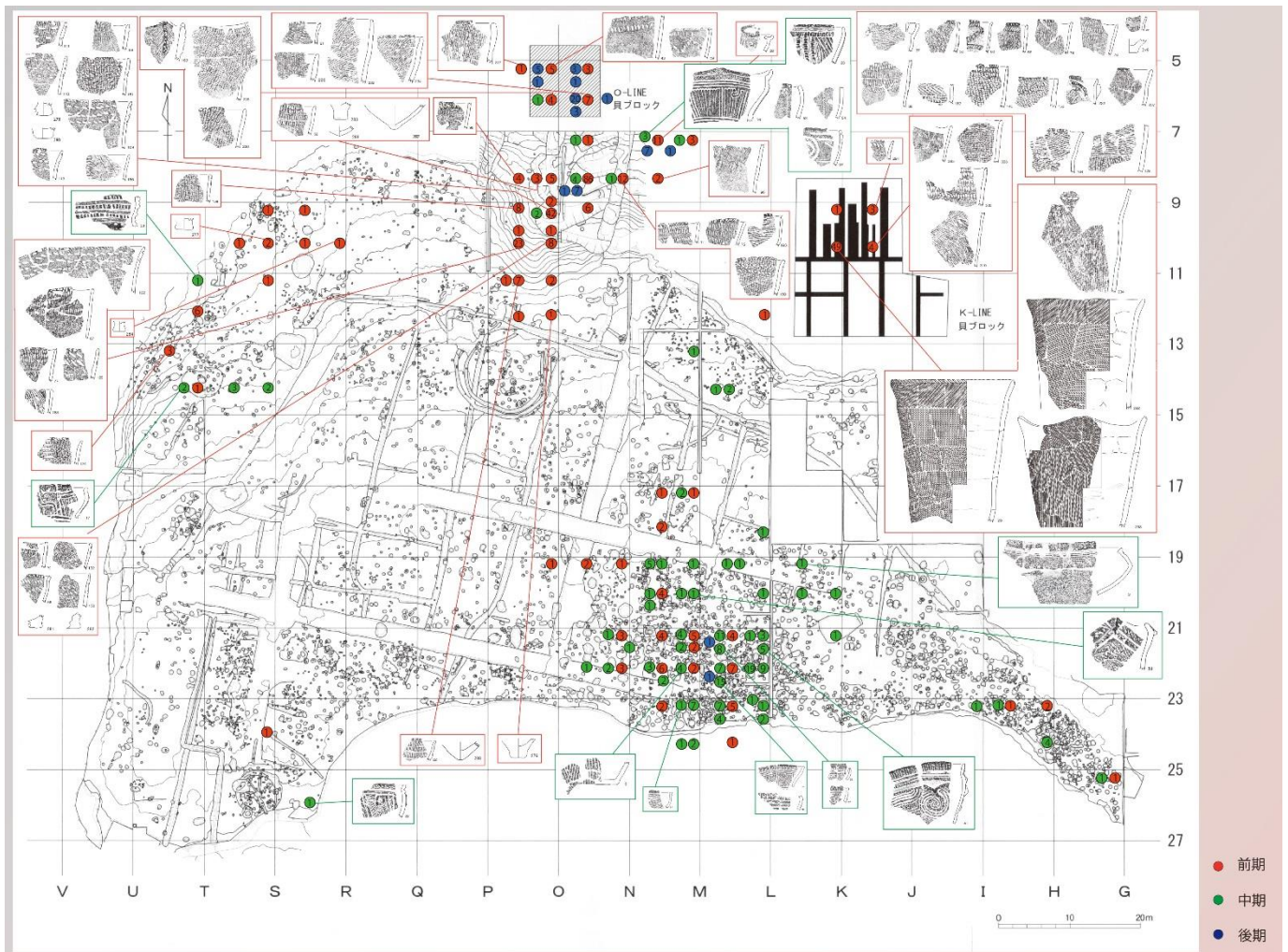
特筆すべきは、玦状耳飾を中心とする石製装身具が大量に出土したことです。これらの装身具は、ほぼ原位置に近い状態で土壌より出土しており、埋葬時の状況や装身具の組合せを復元できる好事例となっています。また、海外渡来と考えられる石材を使ったものが含まれており、縄文時代における海外交流を解明する貴重な資料でもあります。

これら、極めて高い学術的価値が認められ、平成24年9月に国指定重要文化財になりました。

#### （2）土器

土器は縄文時代早期～後期にいたるまで、かなりの量が出土しています。しかし、出土地点により、かなり量比に差があります。例えば、本遺跡を象徴する玦状耳飾が多く出土した、遺跡南西部の丘陵平坦部は耳飾と同時期の早・前期土器は少なく、中期の土器が多く出土しています。また、遺跡に重要な情報をもたらした丘陵北東斜面の貝塚では、ほとんどが早・前期の土器で占められていました。

本展では、展示スペースの関係で、早・前期の土器から抜粋して展示しています。この時期の特徴としては、東海地域の影響を受けた土器、関東地域の影響を受けた土器などに、在地で派生したと思われる土器が入り混じり、北陸の他地域とは少し異なった様相が見られます。

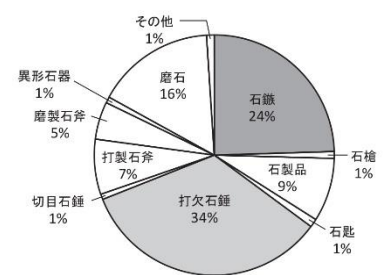


土器出土分布図

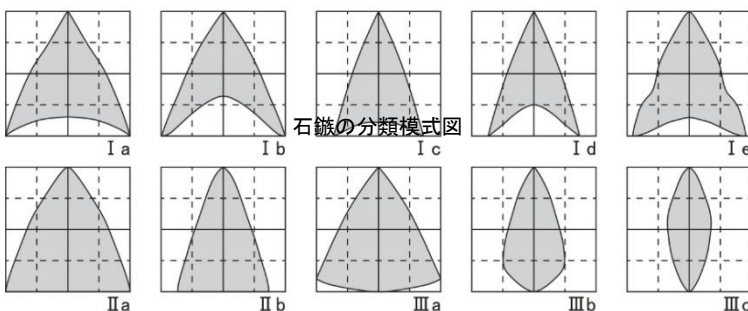
### (3) 石器

石器は石鏃 238 点、石槍 9 点、異形石器 8 点、石匙 11 点、打製石斧 72 点、磨製石斧 49 点、打欠石錘 329 点等、総量で 971 点の石器が出土しており、打欠石錘と石鏃の比率が高いのが特徴です。

打欠石錘は遺跡の中で万遍なく出土していますが、北東貝塚からは 46 点とまとまって出土しています。打欠石錘が多量に出土するのは、海浜・潟湖の周辺に立地する遺跡が多く、福井県内では本遺跡のほかに鳥浜貝塚（若狭町）があります。

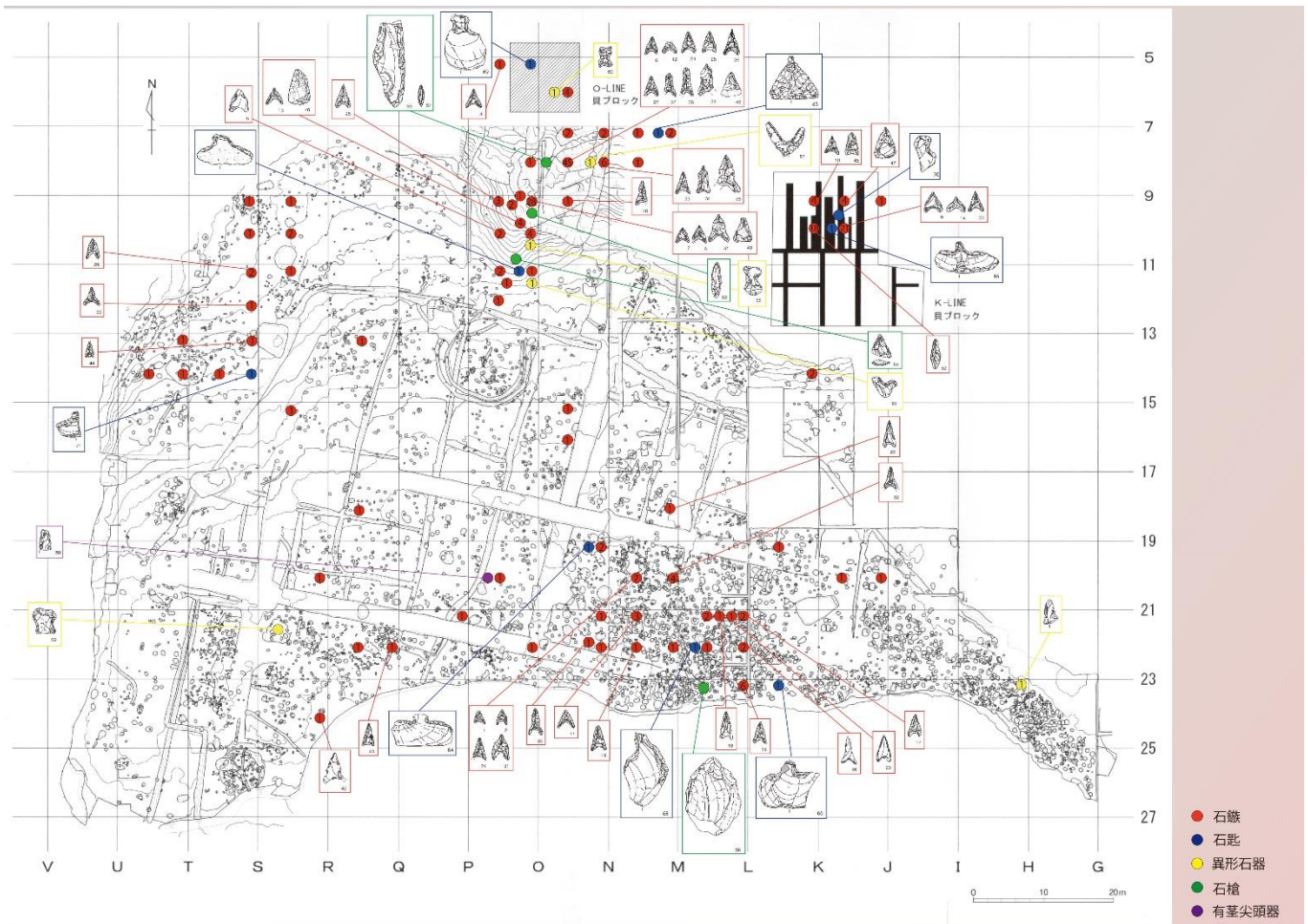


石器の器種別比率図

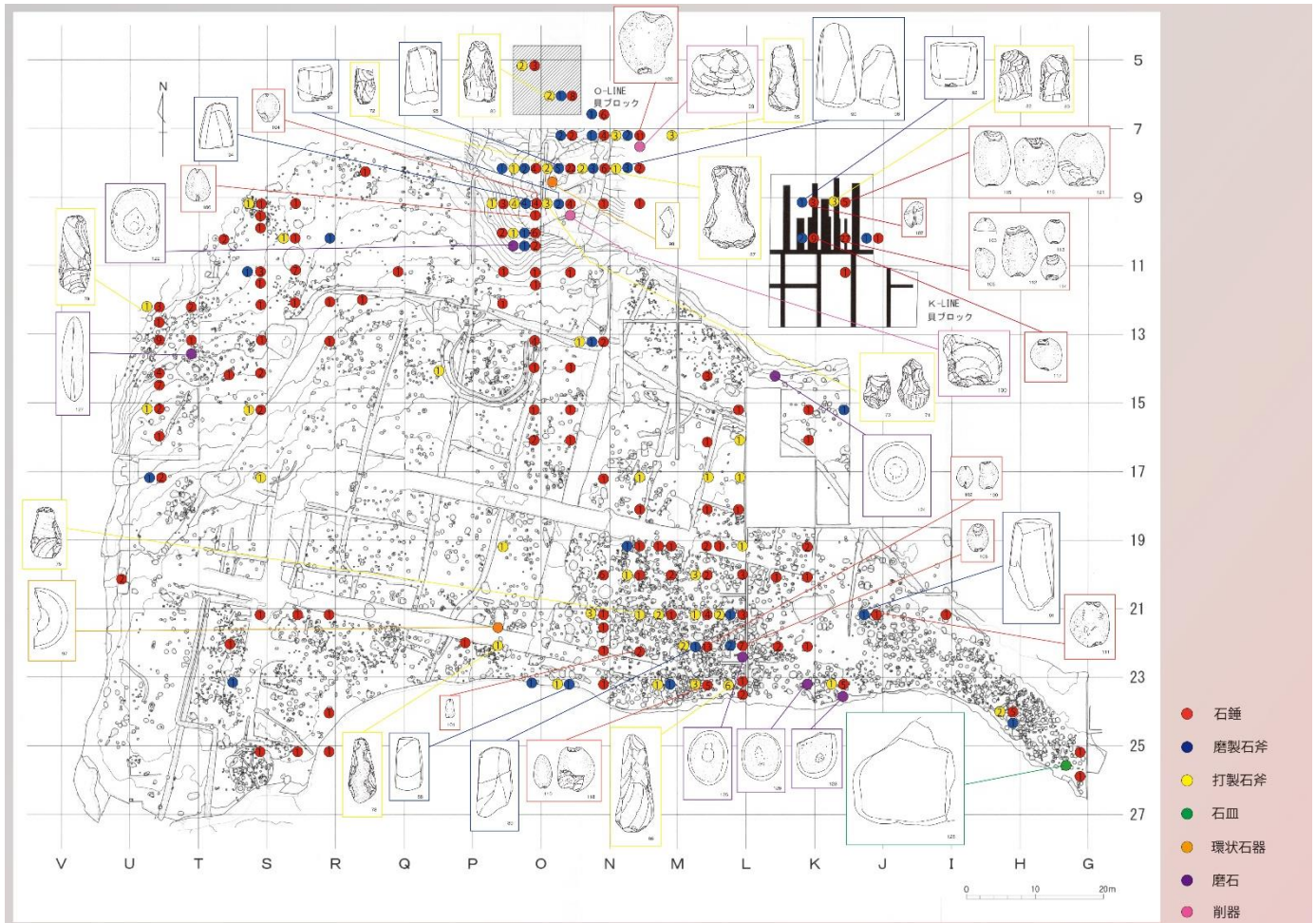


石鏃の分類模式図

石鏃は北側斜面貝塚や北東斜面貝塚で多量に出土しています。平面の形態から大きく 3 つに分類することができ（その中で幾つか細分しています（左図参照）。I c が 100 点と一番多く出土し、全体の約 45% を占めています。



石器出土分布図1 (石鏃・石匙等)



石器出土分布図2 (石錘・石斧等)

#### (4) 周囲の環境

本遺跡からは北側斜面と北東側斜面から貝塚が検出されています。貝塚は、周囲の生活環境を知ることのできる重要な手がかりとなる上に、縄文時代早・前期は検出事例が少なく、本遺跡の貝塚は貴重な情報をもたらしてくれました。分析によると、貝塚形成直前までは藻などが豊富な、汽水・淡水域だったと考えられています。

検出された動物遺体は、貝類はヤマトシジミが主体で比較的大きく、魚類では、淡水系はコイ・ウグイが最も多く、内湾系ではクロダイ・スズキが多かったものの、外海系の魚類は見られませんでした。獣類はイノシシやシカが多く見られ、海・山の幸を得られる豊かな土地であったと考えられます。



0ライン北斜面貝塚全景（北東から）



北東貝塚K11~K10 東側土層断面全景（東方から）

## 2. 北陸の装身具（玦状耳飾を中心に）

### (1) 時代ごとに変化する玦状耳飾（玦飾）

けつしょうのみみかざり けつかざり  
玦状耳飾（玦飾ともいう）は、  
せっかん  
「石環の一部に切り目を入れてC字状にした装身具」です。縄文時代前期（5000～6000年前）を代表する装身具で、東北地域では中期中葉まで使用が続いています。

この玦状耳飾が列島で最初に出現したのは縄文時代早期末葉とされています。なかでも、桑野遺跡（約6,800年前）は出土量も多く、各個体が整美で、かつ出土した状態も良く分かり、縄文社会や習俗に関する重要な情報をたくさんもたらしてくれます。

早期末葉	桑野様式		桑野
前期初葉	極楽寺様式		極楽寺 上久津田中層
前期前葉	大角地様式		大角地
前期中葉	阿久様式		阿久
前期後葉	有明山社・平岡様式		有明山社 平岡
			有明山社 平岡 小竹 大武
前期末葉	内巻下層 a様式		内巻下層
中期初葉・前葉	大木ら・7a・7b様式		大木ら
中期中葉	大木ら・8a・8b様式		大木ら

玦状耳飾の編年表（作成：藤田富士夫氏）

玦状耳飾（玦飾）を時代を追って並べて見ると、カタチや断面、中心の孔の大きさや位置に各時代の基準「一般的規範」（流行）が良く反映している事が分かります。

- 早期末葉の「桑野様式」では、整美な環状形をした玦状を呈しています。大小の違いがあるが、形（カタチ）にはっきりとした斉一性が見られます。
- 前期前葉・前期中葉の「極楽寺・大角地様式」では、早期末葉の環状品の形（カタチ）を受けつぎながらも、切り目の先端を細くするなど変化があらわれます。
- 前期前葉の「阿久様式」では、中心の孔が全体的に小さくなるとともに、とりわけ扁平感を示すものが見られます。
- 前期後葉の「有明山社・平岡様式」では、中心の孔が上方に片寄りがちとなります。断面を見ると、下方が平らで、上方がドーム形を示す「カマボコ形」が多くなります。
- 前期末葉・中期初頭・中期中葉では、中心の孔が前期後葉よりもさらに上方に上がり、孔の両端が長く垂れさがります。三角形をした玦状耳飾（玦飾）さえあらわれるようになります。

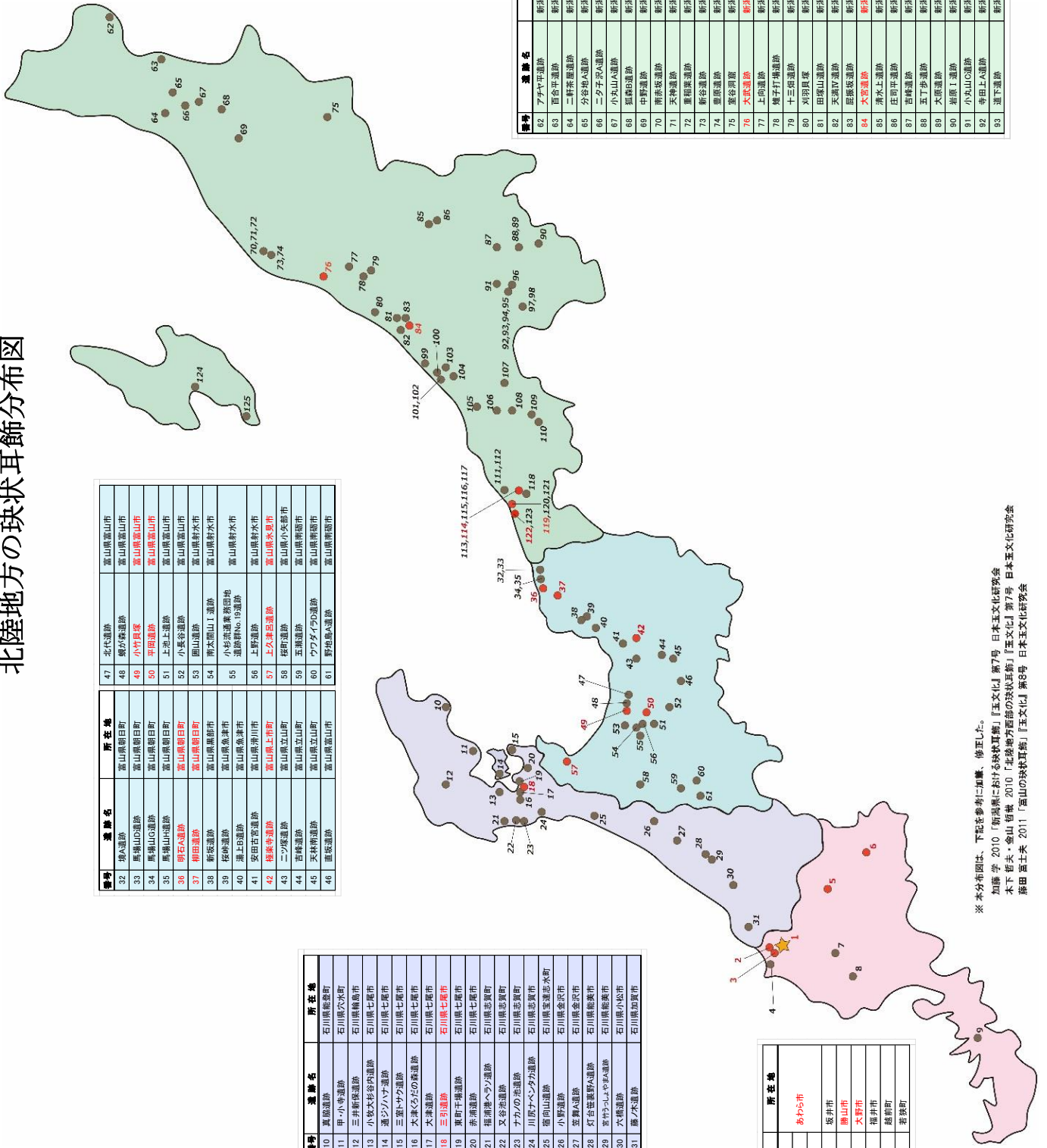
## （2）桑野遺跡



桑野遺跡出土石器・石製品（国指定重要文化財）

本遺跡からは玦状耳飾が71点、筥状垂飾が5点、棒状垂飾が1点、腕輪状垂飾1点、大珠1点、管玉3点、異形石器2点が出土し、これら全てが国の重要文化財に指定されています（附けたりとして水晶原石が1点ある）。うち、約9割近い76点が土壌出土で、これらの組み合わせは、縄文時代の葬送儀礼を考える上で貴重な情報であり、且つ、白色系の一部石材は、日本国内で類例が無いものを含み、遺跡が存在した約6,800年前に海外との交流があったことを示唆する大変貴重な資料です。

# 北陸地方の球状耳飾分布図



番号	遺跡名	所在場
32	橋本遺跡	富山県朝日町
33	馬場山G遺跡	富山県朝日町
34	馬場山中遺跡	富山県朝日町
35	馬場山中遺跡	富山県朝日町
36	明石A遺跡	富山県朝日町
37	明石B遺跡	富山県朝日町
38	新築遺跡	富山県朝日町
39	探検遺跡	富山県朝日町
40	黒上B遺跡	富山県朝日町
41	安田右宮遺跡	富山県朝日町
42	梅原寺遺跡	富山県朝日町
43	二ツ塚遺跡	富山県朝日町
44	吾林遺跡	富山県朝日町
45	天林館遺跡	富山県朝日町
46	重坂遺跡	富山県朝日町
47	北代遺跡	富山県朝日町
48	鯉川遺跡	富山県朝日町
49	小竹貝塚	富山県朝日町
50	中野遺跡	富山県朝日町
51	上池上遺跡	富山県朝日町
52	小野谷遺跡	富山県朝日町
53	佃山遺跡	富山県朝日町
54	柳大田山1遺跡	富山県朝日町
55	小杉流遺跡	富山県朝日町
56	上野遺跡	富山県朝日町
57	上久津百遺跡	富山県朝日町
58	榎野遺跡	富山県朝日町
59	五輪遺跡	富山県朝日町
60	ワフタウイD遺跡	富山県朝日町
61	野地島入遺跡	富山県朝日町

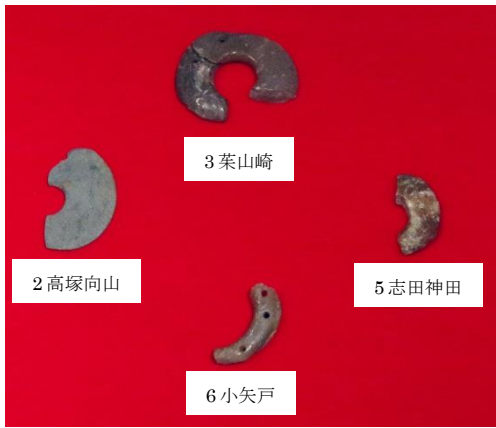
番号	遺跡名	所在場
10	黒崎遺跡	石川県七尾市
11	甲-小寺遺跡	石川県七尾市
12	三井新倉遺跡	石川県七尾市
13	小敷木杉谷内遺跡	石川県七尾市
14	通ジノハナ遺跡	石川県七尾市
15	三堂ツサツ遺跡	石川県七尾市
16	大津くたの倉遺跡	石川県七尾市
17	大津遺跡	石川県七尾市
18	三引遺跡	石川県七尾市
19	東町子橋遺跡	石川県七尾市
20	赤浦遺跡	石川県七尾市
21	権津屋へらノ遺跡	石川県七尾市
22	又谷流遺跡	石川県七尾市
23	ナカノの池遺跡	石川県七尾市
24	川原ノベツカ内遺跡	石川県七尾市
25	権山遺跡	石川県七尾市
26	小野遺跡	石川県七尾市
27	笠原入遺跡	石川県七尾市
28	灯台築野入遺跡	石川県七尾市
29	宮ツツシヤ内遺跡	石川県七尾市
30	六橋遺跡	石川県七尾市
31	藤ノ木遺跡	石川県七尾市

番号	遺跡名	所在場
1	桑野遺跡	あわさ市
2	高塚岡山遺跡	あわさ市
3	赤山崎遺跡	坂井市
4	権沼遺跡	坂井市
5	志田神田遺跡	奥平町
6	大田ノ小矢戸遺跡	福井市
7	上河北遺跡	越前町
8	佐々生上川去遺跡	越前町
9	鳥浜貝塚	若狭町

番号	遺跡名	所在場
62	アノ平平遺跡	新潟県上越市
63	百合平遺跡	新潟県上越市
64	二軒松遺跡	新潟県上越市
65	分谷A遺跡	新潟県上越市
66	二ノ平A遺跡	新潟県上越市
67	小丸山A遺跡	新潟県上越市
68	藤原遺跡	新潟県上越市
69	中野遺跡	新潟県上越市
70	南赤坂遺跡	新潟県上越市
71	天神遺跡	新潟県上越市
72	重根遺跡	新潟県上越市
73	新谷遺跡	新潟県上越市
74	豊原遺跡	新潟県上越市
75	雲谷洞窟	新潟県上越市
76	大森遺跡	新潟県上越市
77	上向遺跡	新潟県上越市
78	種子ノ集遺跡	新潟県上越市
79	十三間遺跡	新潟県上越市
80	刈羽貝塚	新潟県上越市
81	田原山遺跡	新潟県上越市
82	天淵IV遺跡	新潟県上越市
83	鹿嶋遺跡	新潟県上越市
84	大宮遺跡	新潟県上越市
85	清水上遺跡	新潟県上越市
86	庄司平遺跡	新潟県上越市
87	吉峰遺跡	新潟県上越市
88	大宮遺跡	新潟県上越市
89	大宮遺跡	新潟県上越市
90	大宮遺跡	新潟県上越市
91	小丸山遺跡	新潟県上越市
92	寺田上A遺跡	新潟県上越市
93	遺下遺跡	新潟県上越市
94	遺下平遺跡	新潟県上越市
95	駒成山遺跡	新潟県上越市
96	下平田遺跡	新潟県上越市
97	洗鉢遺跡	新潟県上越市
98	洗鉢II遺跡	新潟県上越市
99	磯原遺跡	新潟県上越市
100	長峰遺跡	新潟県上越市
101	丸山遺跡	新潟県上越市
102	藤原遺跡	新潟県上越市
103	遺下ノ遺跡	新潟県上越市
104	古町B遺跡	新潟県上越市
105	山腰遺跡	新潟県上越市
106	小滝遺跡	新潟県上越市
107	釜山B遺跡	新潟県上越市
108	遺下遺跡	新潟県上越市
109	和泉入遺跡	新潟県上越市
110	代々小学校跡遺跡	新潟県上越市
111	深谷遺跡	新潟県上越市
112	新渡遺跡	新潟県上越市
113	中原遺跡	新潟県上越市
114	岩野A遺跡	新潟県上越市
115	岩野B遺跡	新潟県上越市
116	岩野下遺跡	新潟県上越市
117	川島遺跡	新潟県上越市
118	長ヶ部遺跡	新潟県上越市
119	長ヶ部遺跡	新潟県上越市
120	原山遺跡	新潟県上越市
121	四割ノ柳A遺跡	新潟県上越市
122	大角地遺跡	新潟県上越市
123	寺田上B遺跡	新潟県上越市
124	吉田宮跡遺跡	新潟県上越市
125	長ヶ部平遺跡	新潟県上越市

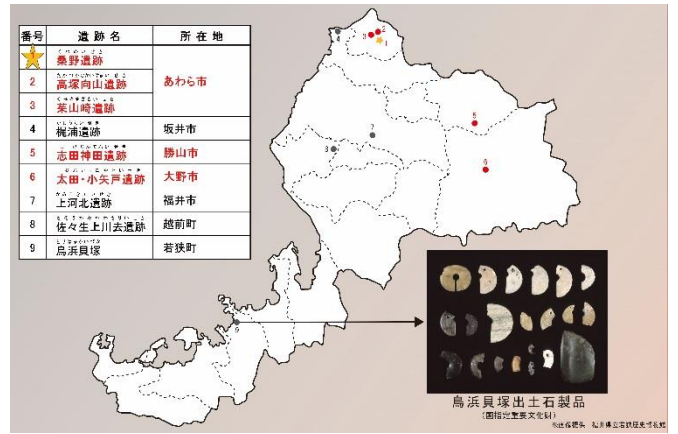
※ 本分布図は、下記を参考に加筆、修正した。  
 加藤 学 2010 「新潟県における球状耳飾」『五文化』第7号 日本文化研究会  
 木下 哲夫、金山 哲哉 2010 「北陸地方西部の球状耳飾」『五文化』第7号 日本文化研究会  
 藤田 富士夫 2011 「富山の球状耳飾」『五文化』第8号 日本文化研究会

### (3) 福井県出土の装身具



福井県出土石製品

(所蔵：3, 5, 6 福井県教育委員会、2 あわら市)



### (4) 三引遺跡 (石川県七尾市)



第1貝塚検出状況

(画像提供：石川県埋蔵文化財センター)

本遺跡は石川県七尾市田鶴浜町に所在し、能越自動車道改良工事及び主要地方道氷見田鶴浜線の建設に伴い、平成6年～12年（1994～2000）に調査が行われました。その時の調査範囲から、縄文時代早期末～江戸時代の遺物が出土しています。

本遺跡では縄文時代後晩期～中世を主体とする上層と縄文時代早期末～中期を主体とする下層の2層に大きく分かれています。

下層からは5つの貝塚が検出されています。この層での土器は、文様構成の把握可能な大型片で、遺存状態が良好な資料が多く、箱数で約600箱も出土しました。また、石器や動植物遺体も多数出土しており、当地域の古環境の解析を進めた重要な遺跡です。



遺跡出土石製品

(所蔵：石川県埋蔵文化財センター)

本遺跡から玦状耳飾が46点（内未成品が6点）出土しており、本展では36点を石川県埋蔵文化財センターよりお借りしています。

石材の多くは滑石と粘板岩で、これらは本遺跡周辺（能登）では採れず、糸魚川市姫川周辺で産出された可能性があります。そこは、本展で展示している大角地遺跡の近くで、出土品の時期も近いものです。もし、糸魚川市姫川周辺の石が本遺跡で利用されていたとするならば、縄文時代の地域交流を考える上で貴重な情報となります。

形態は、小型品から中型品で、環形を呈しているものが主体となっています。これらの特徴や遺跡の様相から、縄文時代前期初頭のものと考えられます。

### (5) 上久津呂中屋遺跡 (富山県氷見市)



遺跡全景

(画像提供：富山県埋蔵文化財センター)

本遺跡は富山県氷見市上久津呂に所在し、能越自動車道の建設工事に伴い、平成15年～17年（2003～2005）に調査が行われました。その時の調査範囲では、縄文時代早期後葉～江戸時代の遺物が出土しています。

遺物については縄文時代の谷と思われるところから、膨大な量が良好な状態を保って出土しています。次期幅は広く、早期から晩期まで出土しており、早期末～前期前葉、中期中葉～中期後葉の2時期が出土量のピークとなっています。また、この遺跡の始まりの時期と考えられる早期後葉で、

当初は東海系の土器のみが 検出され、かの地との交流、もしくは移住の可能性も伺えます。そして、当遺跡では富山県内最古の 貝塚が検出されており、そこでは未成品の骨角器が出土しており、骨角器の生産を行っていたことが考えられます。

塊状耳飾は 20 点出土しています。完形品が 1 点、残りは欠損品で、うち 4 点が未成品です。石材は滑石 17 点、石英片岩 2 点、透閃石岩 1 点となっています。これら全てを富山県埋蔵文化財センターよりお借りしています。

外径に対して孔が大きく環形をしているものが主体で、遺跡の様相などから縄文時代早期末～前期前葉のものと考えられます。



遺跡出土石製品

(所蔵：富山県埋蔵文化財センター)

### (6) 極楽寺遺跡 (富山県上市町)

本遺跡は富山県中新川郡上市町極楽寺に所在し、昭和 20 年代から平成にかけて数回にわたる調査が行なわれています。それらの調査より、縄文時代前期初頭～中期初頭の遺構や遺物が検出されています。その中で、本遺跡出土の土器は「極楽寺式」と呼ばれ、縄文時代前期初頭の指標となっています。

また、多量の滑石製石製品が出土しています。これらの多くは未成品で、完成品がほとんど見られないことから、本遺跡が製作遺跡で、完成品は他所へ運ばれていたこと、近辺に滑石の産地があったのではないかと推測されています。

遺跡は複数回調査が行なわれており、本展では昭和 38 年 (1963) に、富山県教育委員会、上市町教育委員会、富山考古学会、國學院大学考古学会による調査が行われ、その後富山県埋蔵文化財センターに収蔵された資料をお借りしています。その時に出土した滑石の製品は 65 点あり、その中で塊状耳飾と見られるものは 23 点で、すべて欠損品です。

形態は、環形を呈していて、切り目の先端が細くなる傾向があり、これらの特徴や、遺跡の様相から縄文時代前期初頭のものと考えられます。



遺跡遠景 (昭和 41 年頃)  
(画像提供：藤田富士夫氏)



遺跡出土石製品

(所蔵：富山県埋蔵文化財センター)

### (7) 明石 A 遺跡 (富山県朝日町)

本遺跡は富山県下新川郡朝日町宮崎の中で、江尻川から西に約 600m、古川までに大小 5 つの扇状地性崖錐台地があり、その最も西端に所在しています。縄文時代前期初葉～中期前葉の土器が検出されており、その頃の遺跡であると考えられます。その他の出土遺物には、打製石斧、



遺跡出土石製品

(所蔵：富山県朝日町教育委員会)

磨製石斧、石鏃、石錘、石皿など、豊富な石器が出土しています。

また、塊状耳飾やヒスイの装飾品なども見つかっており、それらは原石から製作途中のものも含むことから、製作遺跡の一つと考えられます。

塊状耳飾は表面採集で収拾された資料がほとんどで、本展では富山県



遺跡遠景 (令和元年撮影)



朝日町教育委員会所蔵より 17 点をお借りしています。石材は主に滑石などで製作されており、1 点の完形品がある他は全て欠損しています。

形態は、環形をした小型品が多く、孔が外形に対し大きいものが主体です。これらの特徴から、極楽寺遺跡と同時期の縄文時代前期初頭のものと考えられます。

### (8) 長者ヶ原遺跡・岩野 A 遺跡 (新潟県糸魚川市)



長者ヶ原遺跡遠景  
(画像提供：糸魚川市教育委員会)

長者ヶ原遺跡は新潟県糸魚川市大字一ノ宮に所在しています。明治 30 年 (1897) に遺跡が発見されて以来、昭和～平成にかけて調査が行なわれ、縄文時代中期を主とする遺物、遺構が検出されています。また、昭和 46 年 (1971) には国の史跡に指定され、その後、史跡の保存整備を行ない平成 13 年 (2001) には「長者ヶ原遺跡公園」としてオープンしています。

本遺跡からは、縄文時代中期の、石斧やヒスイの玉の未成品が大量に検出されており、それらの生産・交易拠点であったと考えられています。

このように縄文時代中期のヒスイの製作遺跡として有名ですが、更に古い時代の石製品も多数出土しています。本展では昭和 56 年 (1981) に行なわれた第 4 次調査のときの資料から 3 点を、糸魚川市教育委員会よりお借りしています。いずれも滑石製で欠損しています。形状より縄文時代前期前葉のものと思われる。

岩野 A 遺跡は海川の東に所在し、昭和 56 年に行われた農道整備の際に採集された 4 点 (内未成品 2 点) を同じく糸魚川市教育委員会からお借りしています。環形で孔が大きく、材質は滑石製です。長者ヶ原遺跡と同時期の縄文時代前期前葉と考えられます。



長者ヶ原遺跡・岩野 A 遺跡  
出土石製品  
(所蔵：糸魚川市教育委員会)

### (9) 大角地遺跡 (新潟県糸魚川市)



遺跡遠景  
(画像提供：新潟県教育委員会)

本遺跡は新潟県糸魚川市大字田海に所在し、北陸新幹線の建設に伴い、平成 17 年に調査が行われました。その時の調査範囲では、後期旧石器時代～室町時代の遺物が出土しています。

中でも縄文時代早期末～前期前葉が最盛期だったと考えられています。この時代には、蛇紋岩磨製石斧の製作が行われており、原石から完成品に至る一連の資料や、工具が多数出土しています。

また、同じく縄文時代早期末～前期前葉の滑石製装身具も多数出土しています。これらの多くは製作途中のものがほとんどで、ここで、玦状耳飾を含む石製装身具の生産が行われていたことが伺えます。これら磨製石斧や石製装身具の未成品の多量の出土は、自家消費だけ

でなく、商品として他へ運ばれていたと考えられ、縄文時代の物資の交流を考える上で貴重な遺跡です。

玦状耳飾は 45 点出土しています。本展ではその中から 23 点を新潟県教育委員会よりお借りしています。

石材はほぼ滑石製で、1 点を除き、欠損した状態で出土しており、製作途中で破損したものと考えられます。また、未成品が多く、仕上げ段階を示す完形品もほとんどなかったことから、本遺跡が装身具の製作遺跡であったとともに、製品を他の地域に搬出していたものと思われる。



遺跡出土石製品  
(所蔵：新潟県教育委員会)

大きさから、大型・中型・小型の3種に分類することができ、このうち小型のものが最も多く、全体の半数以上を占めています。大半の資料が円環状をしていることや、共伴土器の様式などから、縄文時代早期末葉～前期初頭のものと考えられます。

### (10) 大武遺跡 (新潟県長岡市)

本遺跡は新潟県長岡市島崎字大武に所在し、国道116号和島バイパスの建設に伴い、平成6年～9年にわたる4年間調査が行われました。

その時の調査で、縄文時代以前に開析された埋没谷が検出され、層的に縄文時代前期前葉～室町時代の遺物が出土しています。

本遺跡では石器、石製品の出土は17,000以上に及びます。これらの中で特徴的なのが、縄文時代前期前葉に東北地方からもたらされた石匙で、東北地方との結びつきが伺えます。また、糸魚川産の蛇紋岩を使用した磨製石斧の製作が行われています。蛇紋岩は糸魚川地域から海路で運搬されていたと考えられ、海岸線沿いに磨製石斧の製作遺跡が点在し、本遺跡もその拠点の一つだったと思われます。

玦状耳飾は19点出土しています。新潟県では2番目に多い出土量で、石材はすべて滑石製です。これらの中から本展では15点を新潟県教育委員会よりお借りしています。

出土資料は、中央の孔が外形に対して内径が小さい円盤形が主体をなしています。この特徴はそれまでの研究から縄文時代前期中葉のものと考えられていましたが、共伴した土器は前期前葉であることから、本遺跡の玦状耳飾前期前葉までさかのぼる可能性があります。

また、資料中には破損後に紐等で結束するために穿たれた二次穿孔や、破損部分を研磨し変形した事例などが多数見られます。これらの事例は原石が容易に入手できない場所で見られることから、原石産地が遠くにあることを示唆しています。

原石産地を近くに有しないところで、多量に玦状耳飾が出土したことに加え、製作途中の未成品も出土していることは、とても興味深いことです。

### (11) 大宮遺跡 (新潟県柏崎市)

大宮遺跡は新潟県柏崎市横山地内に所在し、大規模な民間宅地造成に伴い、平成6年(1994)に調査が行われました。その時の調査から、縄文時代前期後葉の集落遺跡であったと考えられます。

本遺跡では石器、石製品の出土は約6,000点に及びます。これらの中で特徴的なのが、糸魚川産の蛇紋岩を使用した磨製石斧の製作です。蛇紋岩は糸魚川地域から海路で運搬されていたと考えられ、海岸線沿いに磨製石斧の製作遺跡が点在し、本遺跡もその拠点の一つだったと思われます。

玦状耳飾は22点出土しています。完形品が4点、残りが欠損品ですが、うち5点が未成品です。石材は滑石5点、蛇紋岩8点、珪長石8点、流紋岩1点となっています。これらの中から本展では13点を柏崎市教育委員会よりお借りしています。



遺跡遠景  
(画像提供：新潟県教育委員会)



遺跡出土石製品  
(所蔵：新潟県教育委員会)



遺跡全景  
(画像提供：柏崎市教育委員会)



遺跡出土石製品（所蔵：柏崎市教育委員会）

形態は、全体が円形もしくは縦長の楕円形で、中央の孔が外形に対して内径が小さいものが主体となっています。また、未成品には蛇紋岩の製品が多く、本遺跡から蛇紋岩製の石斧（未成品を含む）が多量に出土していることを合わせて考えると、蛇紋岩による石製品加工が同時に行われていたと思われます。

玦状耳飾の形態からは縄文時代前期中葉の可能性がありますが、一緒に出土した土器の様相などから、前期後葉のものと考えられます。

### （12）平岡遺跡（富山県富山市）

本遺跡は富山県富山市池多から同婦中町小長沢内に所在し、県道31号（小杉婦中線）の改良工事に伴い、平成24年（2012）に調査が行われました。その時の調査範囲では、縄文時代及び平安時代の遺物が出土しています。



遺跡全景  
（画像提供：富山県埋蔵文化財センター）

遺跡の主体は縄文時代前期後葉～前期末葉で、竪穴住居跡が14棟、掘立柱建物5棟、埋設土器15基、土抗墓78基などの遺構が検出されています。

そして、この時代の北陸地域では調査事例の少ない、墓域を囲むように竪穴住居が建ち並ぶ環状集落を形成していました。

また、当遺跡からは石鏟が富山県では有数の量出土しており、狩猟活動が盛んに行われていたと考えられます。他にもクルミやクリなどの炭化種実が検出されており、これらから当遺跡は生業活動の最適地に形成された定住生活の場であったと思われます。



遺跡出土石製品  
（所蔵：富山県埋蔵文化財センター）

玦状耳飾は35点出土（2点は接合）しています。完形品が5点、残りは欠損品で、うち1点が未成品です。石材は滑石18点、透閃石岩9点、角閃岩4点、石英・砂岩各1点となっています。これらの中から本展では21点を富山県埋蔵文化財センターよりお借りしています。

出土地点は建物跡から13点、土抗墓から14点、包含層から6点（墓域内）となっています。また、未成品がほとんどないことなどから、本遺跡が桑野遺跡と同じ消費遺跡であることが伺えます。

形態は、全体が円形もしくは横長の楕円形で、中央の孔が外形に対して内径が小さいものが主体で、これらの特徴や、遺跡の様相から縄文時代前期後葉のものと考えられます。

### （13）小竹貝塚（富山県富山市）



貝塚C地区全景  
（画像提供：富山県埋蔵文化財センター）

本貝塚は富山県富山市呉羽町北から同呉羽町昭和に所在し、北陸新幹線の建設工事に伴い、平成21年、22年（2009、2010）に調査が行われました。その時の調査範囲では、縄文時代前期～江戸時代の遺構や遺物が確認されています。

本貝塚は、縄文海進時に水域であった射水平野の末端に位置し、日本海側最大級の貝塚として有名です。調査の結果、縄文時代前期中葉～末葉を主体として居住域、墓域、廃棄域をもつ集落であったことが明らかになりました。

また、厚さ最大2mのヤマトシジミ貝層と埋葬人骨の出土量は、縄文時代前期の遺跡では国内有数の規模で、大集落であったことを伺わせます。本貝塚では富山県や富山市によって複数回調査が行われており、本展では平成21年～22年（2009～2010）の調査から3点を富山県埋蔵文化財センターより、平成20年（2008）の調査などで出土した21点を富山市教育委員会よりお借りしています。

なお、平成21年～22年の調査では人骨が多数発掘されています。装身具を有する人骨があります。玦状耳飾は墓墳の人骨付近より出土する傾向があり、縄文時代の葬送儀礼を考える上で貴重な事例となっています。

形状は、孔が外形に対し小さく、厚さが薄いものが主体で、遺跡の様相などからも縄文時代前期後葉のものと考えられます。

#### (14)柳田遺跡（富山県朝日町）

本遺跡は富山県下新川郡朝日町大家庄に所在し、昭和23年（1948）、昭和49年（1974）、平成14年～17年（2002～2005）と調査が行われています。これらの調査より、縄文時代や中世の遺物と遺構が確認されています。

出土している土器から縄文時代前期後葉～末葉が主体となる遺跡であると考えられます。

また、玦状耳飾欠損品、磨製石斧未成品や、ヒスイ・蛇紋岩・滑石等の原石、更に製作に使用されたと考えられる筋砥石等の道具が数多く出土しています。調査範囲で工房跡は確認されていませんが、この遺跡周辺で石器類の製作が行われていた可能性が高いと思われます。

本遺跡は複数回調査が行なわれており、本展では平成14年～17年（2002～2005）にかけて行われた調査で出土したものから15点を富山県朝日町教育委員会よりお借りしています。石材は主に蛇紋岩類と滑石で製作されており、全て欠損品で、遺構から出土したのは3点あります。また、欠損部分をみがき、垂玉として再利用を試みたものもあります。

形態は、全体が楕円形か矩形で、孔が外形に対し小さいものが主体です。これらの特徴や、遺跡の様相から縄文時代前期末葉のものと考えられます。



人骨の出土状況(左)とその付近で検出された玦状耳飾(右)  
(画像提供：富山市教育委員会)



遺跡出土石製品  
(所蔵：(左) 富山県埋蔵文化財センター)  
(所蔵：(右) 富山市教育委員会)



遺跡全景  
(画像提供：富山県朝日町教育委員会)



遺跡出土石製品  
(所蔵：富山県朝日町教育委員会)

## 「桑野遺跡と北陸の縄文装身具」

令和元年

9月14日(土)～12月1日(日)

### あわらし郷土歴史資料館

福井県あわらし市春宮二丁目14番1号(金津本陣IKOSSA2階)

TEL:0776-73-5158 FAX:0776-73-1038

あわらし郷土歴史資料館

検索

アクセス 電車:JR芦原温泉駅→郷土歴史資料館(徒歩15分)  
車:北陸自動車道金津インターチェンジより車で約15分  
(駐車場:普通車46台・身障者用2台、軽自動車1台)

